

移住に関する情報は



ながらリゾートコミュニティ
～ながらに住もう～

<https://www.town.nagara.chiba.jp/site/naga-life/>

NAGARA

企画財政課企画広報統計係
〒297-0298 千葉県長生郡長柄町桜谷712
Tel : 0475-35-2110 / Fax : 0475-35-4732
kikaku@town.nagara.chiba.jp



くらしをつくる。くらしを遊ぶ。

NAGARA

千葉県長生郡
長柄町
移住ガイドブック

くらす、遊ぶ。自然の中で “自分らしさ”に出会える場所

千葉県のほぼ中央に位置する長柄町。

都心から電車や車で約1時間という立地にありながら、
水と緑に囲まれ里山の風景が広がる、心落ち着ける場所です。

そんな長柄町には、ときにのんびりと、ときにアクティブに、
自分らしいくらしを楽しむ人々が集まっています。

すでに叶えたいくらしがある人も、これから楽しみを見つけたい人も。
ここにすればきっと、自分だけの“くらし方”が見つかるはずです。



Make Your Life! NAGARA

Contents

- 04 アクセス・長柄町DATA／MAP
- 06 TOPIX「長柄町ってどんな場所？」
- 10 長柄人インタビュー
- 18 長柄町で活躍する地域おこし協力隊
- 20 町長インタビュー
 - 「目指すのは『みんなが笑顔で暮らせるまち』」
- 22 ながら移住定住ブース
 - 「I LOVE NagaLIFE」
- 23 移住までのステップ／支援制度

移住者の生の声をこちらで
ご覧いただけます！



05

長柄町って
どんな場所？

“くらしの楽しみ”が詰まった場所です！

豊かな自然のなかで、遊びも仕事も子育ても自分らしく。

“くらし”のそばでたくさんの楽しみを見つけられる。自分だけの楽しみ方が見つかる。

長柄町はそんな場所です。

NATURE

豊かな自然

房総半島のほぼ中央 温暖な気候に恵まれたまち

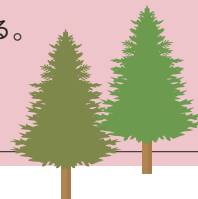
房総半島の「おへそ」に位置する長柄町は、温暖な気候に恵まれた自然豊かなまち。なだらかな稜線と青々とした田園が視界いっぱいに広がり、高台からは太平洋を望むこともできます。季節ごとに移り変わる景観の美しさは、長柄町の自慢です。



田園が広がる里山の風景



県内有数の桜の名所として知られる「長柄ダム」。秋には紅葉も楽しめます



ながらの四季



春



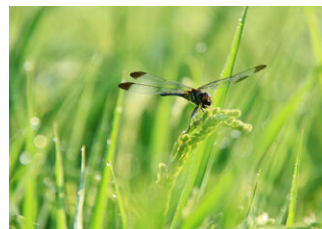
草花が芽吹き、まちが柔らかな色彩に包まれ始める春。桜の名所として知られる長柄ダムにはたくさんの人が訪れ、花見を楽しみます。山菜やタケノコなど、山の恵みを存分に享受できる季節です。

旬の農作物

- ・タケノコ
- ・山菜
- ・菜花
- ・いちご
- ・新玉ねぎ
- ・ソラマメ
- ・サヤインゲン
- など



夏



木々が葉を濃く染める夏。カエルや虫たちも活気づき、町内のあちこちで虫取り網やカゴを抱えた子どもたちの姿が見られます。木陰や縁側でかじる野菜や果物のみずみずしさが、心地よく喉をうるおしてくれます。

旬の農作物

- ・ブルーベリー
- ・ブドウ
- ・きゅうり
- ・とうもろこし
- ・トマト
- ・枝豆
- ・ジャガイモ
- など



秋



黄金の稲穂が揺れる、実りの季節。芋や果物など旬を迎える作物も多く、食卓に並ぶのが待ちきれません。活気溢れる収穫期も終盤に差し掛かる頃には次第に影も長くなり、紅く染まる山々とのコントラストがどこか郷愁を誘います。

旬の農作物

- ・さつまいも
- ・イチジク
- ・新米
- ・落花生
- ・キウイ
- ・栗
- ・ぶどう
- など



冬



年間を通して温暖な長柄町ですが、ときにはうすすらと雪化粧をすることも。良質な土壌が育む自然薯や長ネギは、この頃に旬を迎えます。味噌の仕込み、餅つき、お祭りや駅伝大会など、楽しいイベントも盛りだくさん。

旬の農作物

- ・自然薯
- ・ホウレン草
- ・白菜
- ・大根
- ・長ねぎ
- ・にんじん
- ・れんこん
- など



HISTORY&CULTURE

歴史と文化

人の営みが感じられる 史跡と文化

旧石器時代からの遺跡が数多く存在し、古い寺社や地域の行事など先人から受け継いできた文化がくらしのなかに残る長柄町。先史時代から現代まで連綿と続いてきた人々の営みの証を、町内のさまざまな場所で見ることができそうです。



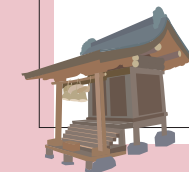
国宝を有する「眼蔵寺」



新たな秋の風物詩
「長柄農林商まつり」



横並びに作られた
古代の墓「史跡長柄横穴群」



PRODUCTS&FOODS

食と産品

自然が育む 四季折々の豊かな食

温暖な気候と肥沃な土壌に恵まれた長柄町は、食材の宝庫。キノコや山菜などの山の恵みをはじめ、季節ごとにさまざまな旬の農作物が店に並び、昔ながらの手仕事を大切にした発酵食など豊かな環境が育んだ豊かな食文化が根付いています。



季節ごとにさまざまな作物が旬を迎え、収穫体験なども楽しめる



新たな特産品も
続々と生まれている
長柄町。地元産の
素材を使った「ながら味噌」も人気

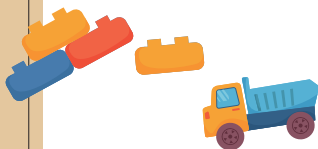


LIFE

くらし・子育て

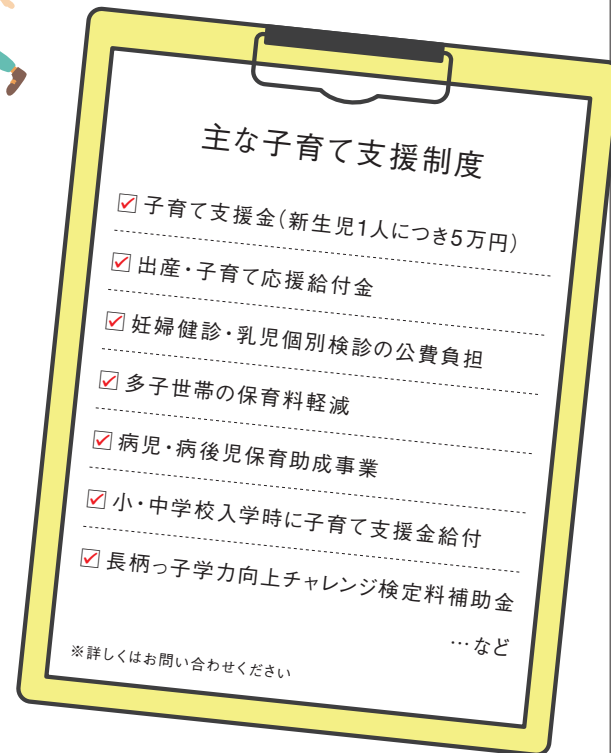
共働き夫婦にもやさしい のびのびと安心して子育てができるまち

初めての子育てや共働き世帯も安心して子育てができる環境を整備するため、妊娠・出産から進学時のサポート、よりよい教育のための支援など、必要な支援を必要な時期に受けられるようにさまざまな制度を設けています。



ながらこども園

親同士の交流も
生まれる「子育て
支援センター」



WORK

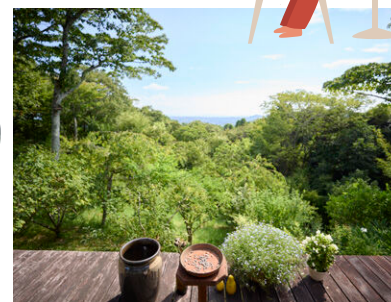
仕事・働き方

新規就農や創業を応援 リモートワークや二拠点も選択肢に

新規就農者に対する支援事業や、町内で創業を希望する人に対する補助金支給制度など、長柄町で自分らしく働くためのサポートを実施。

また、都心までのアクセスのよさを活かし、仕事を変えずに移住する「リモートワーク移住」や二拠点生活を始める人も増えています。

新規就農支援制度を活用して農業に挑戦



自然のなかでリモートワークも

LAISURE SPOT & SHOP

レジャー&スポット

豊富なアクティビティ 日々のくらしの近くに遊びがある

豊かな自然を活かしたアクティビティが豊富な長柄町。アスレチックやキャンプ場、ゴルフ場やサイクリングコースなどが整備されており、自然の中で思いっきり身体を動かしたい人にぴったり！
また、多種多様な農業体験ができる「グリーンツーリズム」も人気です。



アスレチックやキャンプ場、ゴルフ場やテニスコートなど、身体を思いっきり動かせるスポーツ施設が充実



カフェ

caff  e pane macchinetta
ベーカリー併設のおしゃれなカフェ
住所：長柄町山之郷226-10
Tel：0475-47-4486



カフェ・レストラン

太陽ファーム キッチン&カフェ
発酵食材を使ったメニューが充実
住所：長柄町山之郷337-11
Tel：0475-35-0066



カフェ・レストラン

ey食堂
素材を活かした絶品料理
住所：長柄町山之郷482-148
Tel：0475-36-2728



陶房

六地藏窯
登り窯で焼き上げる備前焼の陶房
住所：長柄町六地藏579-1
Tel：0475-35-0501



パティスリー

パティシエール・ナオ
オーダーメイドのケーキと季節のお菓子
住所：長柄町血木172-23
Tel：0475-35-1412



アウトドアショップ

ナウエストキャンプ
通好みの本格的なギアを揃える
住所：長柄町山之郷233-25
Tel：0475-44-6554



アンティーク雑貨

シュトラレーン
多種多様な古雑貨がずらり
住所：長柄町山根1573-10
Tel：0475-36-2240

カブトムシやクワガタと触れ
合える「昆虫ドーム」は子ども
たちに大人気



注目はグリーンツーリズム！



農村の文化や農作業を体験しながら交流を楽しむ「グリーンツーリズム」。気軽に参加できる収穫体験やフルーツ狩りはじめ、季節ごとにさまざまなイベントを楽しめます。



長柄人インタビュー

01



▶▶▶2008年移住

千葉県長生郡長生村より結婚を機に移住。当初は夫婦とも茂原市内で勤めていたが、昇良さんがかねてより興味があった造園の道へ。眞由美さんも出産を機に退職し、より近い職場に移った。現在は中学生の長男と小学生の長女との4人暮らし。

その近さが、ちょうどいい。
人にも自然にも恵まれた
長柄での子育て
只野昇良さん 眞由美さん



長柄町の風景に惹かれて移住を決意

——移住の経緯を教えてください。

昇良さん：以前は近くの長生村に住んでいたのですが、結婚を機に家を建てようと思いましたが、当時は2人とも茂原市内で働いていたので、通える場所というのを条件に近隣の市町村をはじめいろいろな場所を探しました。地元の勝浦なども候補に挙がったのですが、最終的にこの場所の景色を見たときに「ここだ」と。自然や田園のある風景にすごく惹かれたんですよ。

眞由美さん：それまでアパート暮らしだったので、これからのことを考えてまずは子育てをしやすそうな場所に家を建てたいな、と。いろいろな場所を見たけれど、ここの風景が1番印象に残りましたね。

——移住後に何か変化はありましたか？
眞由美さん：時間もゆっくりになって、気持ち的にもゆったり過ごせています。家が大好きになりました。

昇良さん：自分で納得して決めた場所だから、家にいるだけでリラックスできる。家にいる時間が一番楽しくて落ち着きます。
眞由美さん：子どもたちもそうみたいで、どこかお出かけしていても「早く帰ろう」って言うんですよ。

——ご自宅にもこだわりが。

昇良さん：木造にしたいという希望が第一にありまして。古民家に憧れがあったので、この家もちょっと古民家風に建ててもらいました。材料はもちろん、家のつくりにしても、昔の家に必ずあった家族が集まれる広間を作ったり。そういう部分を大事にしています。

眞由美さん：新築なんですけど、前からあったみたいな雰囲気がいいなと。遊びに来た友達にも「え？古民家じゃないの？」ってよく言われます。それを聞いて、「よしよし」って（笑）。

自然も人もほどよい距離感

——住環境についてはいかがですか？

眞由美さん：わざわざ公園とかに行かなくても、すぐそこで自然に触れられる。それがすごくいいなと思っています。
引っ越した初日は「カエルの声がめっちゃ聞こえる！」ってびっくりしましたけど、



今は鳴き声の違いとかもわかりますよ。

昇良さん：鳥の声で目が覚めたりとかね。いろいろな鳥の囀りを聞きながら縁側でお茶を飲むのが好きなんですけど、これはお金では買えない財産です。そういうものと当たり前に触れ合える環境がいいですね。それに車の通りも多くないので、安心して子どもたちを遊ばせられます。

眞由美さん：お兄ちゃんくらいの歳になると自転車でもどこにでも行けちゃうので、「今日はどこに行ってたの？」と聞くと長柄ダムとかロングウッドステーションとか、大人が驚くような距離を走っていたり。
昇良さん：茂原の市街地のほうまで行っただけで、僕たちもびっくりしました。
眞由美さん：まあ、足腰強くなりそうではないかな、と（笑）。

それから、子どもの数が少ないせいか、子ども同士、ママ同士はもちろん先生も含めて繋がりがすごく強いですよ。

昇良さん：同じ学年で仲がいいっていうのはよくあると思いますけど、学年の壁を超

えて仲がいいんですよね。

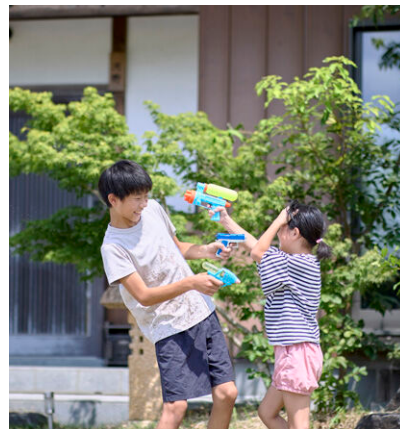
眞由美さん：年上の子たちが下の子たちの面倒を当たり前のように見てくれますし、ママ同士も誰かが忙しいときは「子どもを見ておくね」という声掛けが自然にできる。気負わずに協力し合えるんです。そのせいか、長柄町の子どもたちって、大人に対して変にかしまったりせず、すごく気軽に接してくれてとてもかわいいんですよ。だから、みんな自分の子どもみたいな感覚になっています。

——人との距離が近い？

眞由美さん：はい。でも、面倒な近さではなくて、そっと見守ってくれるようなほどよい距離感で繋がっている。それがすごくありがたいです。

昇良さん：長柄の人って本当に優しいよね。

眞由美さん：中には辛口なご意見を下さるおじさんとかもいますけど、実は「最近どうなんだ」ってすごく気にかけてくれたり。いつもそういう先輩たちに助けられていますね。



長柄町は住めば住むほど好きになる場所

——今後やってみたいことはありますか？

昇良さん：長柄町は千葉の中心にあってすごく立地がいいのに環境がよくて、実はすごいポテンシャルを持っていると思うんです。実際、住んでみると新しい魅力がどんどん出てきます。

僕は造園業をやっているのでも、子どもたちに自然と触れ合う機会を作ったり、大切さを伝えたりする活動を通して、長柄町の魅力も同時に広めていけたらと思っています。
眞由美さん：最初は景色だけが理由だったので、今思えばよく来たなと思いますけど、住めば住むほどどんどん好きになる。

今後は長柄を盛り上げる活動にも関わってみたいですね。そして、ぜひみなさんにも一度来ていただいて、長柄に触れてほしいなと思っています。



▶▶▶ 2022年移住

北海道出身。長らく都内で料理人として腕を振るってきたが、自身の生き方を見つめ直す機会があり、興味があったセルフビルドに挑戦。現在は家づくりにビールづくりと、精力的に取り組む。

自由度の高い
長柄だから叶う
広がっていく「ものづくり」
安島千春さん

ちょっとした縁が繋がり、長柄町へ

——長柄町にはどのようなきっかけで、都内のカフェ・レストランでシェフとして働いていたときに、この辺りの野菜をよく使っていたんですよ。ただ、当時は「長柄町」という名前ではなく「千葉県産」くらいの認識だったので、町のことはまったく知りませんでした。年に1回くらいは来ていたはずなんですけどね（笑）。長柄町という場所をちゃんと認識したのは、セルフビルドに取り組むようになってから。ちょっと変わった工法でログハウスを建てている方がいて、長柄町役場の職員の方がたまたまその話を聞きつけ「長柄町役場のバスの待合所を作ってくれないか」とNPO法人を通して依頼したんです。その

NPOにいる知人が、私がセルフビルドに興味を持っていることを知って、声をかけてくれました。それで、東京から参加させてもらうようになり、「あ、この辺りって長柄町っていうんだ」と。そんなご縁もあって、私が家を建てたいと言っていたら、当時の町長が「ここで建てなよ」と誘ってくださったんです。役場の方もいろいろと案内してくださって、この場所で建てることになりました。——長柄町の最初の印象は？ もともと北海道の田舎のほうの出身なのですが、東京での生活が長くなっていたこともあり、不便さを感じましたね。ただ、案内してくださった役場の方がとても親切だったし、いろいろな人と話しているうちに、田舎に住むのも悪くないかなと思うようになりました。高い山がなく、里山や田園の風景が見えるのもいいなど。

セルフビルドで自分の“好き”を形に

——そもそも家づくりをはじめたきっかけは？ いろいろなタイミングが重なって自分のライフスタイルを見直す機会がありまして。ちょっと料理から離れたと思っていた頃に、自分で家を作っている人がいると知って、私もやってみたいと思ったのがはじまり。それで仕事を辞めて、総合的に建築のことを学べるところを探し、東金の職業訓練校



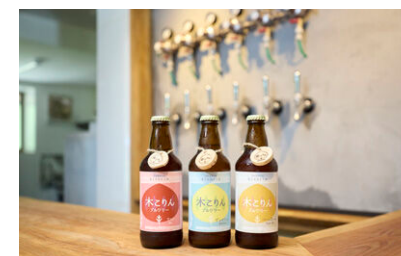
に1年通いました。そこでは日本の在来工法や道具の使い方から手入れの仕方まで学び、土日は知人の家づくりを手伝って……と、建築漬けの生活を送りましたね。——実際にご自宅の建築を始めたのは？ 4年ほど前です。町内の放置されている人工林の木を活用したくて、まずは木を切る場所から始めて、乾燥させて建材にするのに約半年ほど。それから重機が必要な基礎部分の工事や図面の作成は業者の方をお願いしました。最初、プロの建築士の方を紹介してもらって家を建てたいと言ったときは「職人の世界だから、素人が簡単に入って来られるような場所じゃない」ってなかなか相手にしてもらえなかったんですけど、本気の姿勢を見せているうちに理解していただけたみたいで、今もお世話になっています。——安島さんが思うセルフビルドの魅力はどのようなところでしょうか？ やっぱり自分の思うような家を作れるところですね。こんな素材にしたいとか、こんな間取りにしたいとか、今もどんどんアイデアが出てきちゃうのでなかなか進まな



い。たとえばロフトも最初はつける予定ではなかったのに、作っているうちに上のスペースがもったいなくなっちゃって。それならせっかくだから作っちゃおう、みたいな。そこがまた楽しいんですけどね（笑）。

ものづくりが好き。だから長柄町で暮らす

——現在はビール作りも始められたとか。隣にある築100年の古民家を何かに使えないかと知人に相談したところ、一緒にビールを作ろうという話になりました。この8月に「ながら木こりんブルワリー」としてお披露目を行い、現在は道の駅や町内のショップに卸したり、都内などでイベントにも出店しています。ビールとしては、ドイツで飲まれているような、伝統的なスタイルのものですね。どこかに「長柄町らしさ」を取り入れたかったので、建材にした木の枝をタグとして使用しているんですよ。このタグは次回ビールを購入していただく際に5円分のコインとしても使えますし、軽く炙ってグラスに沈めてからビールを注いで飲むと、独特



のスモーキーな香りがつくのでおすすめしています。——それは面白いですね。今後はブルワリーでビールとちょっとしたメニューを提供したりできれば、とも思っています。今、ジビエ料理に興味があって、狩猟免許の取得を目指しているんですよ。ただ、獲ってもさばく施設が町内にないので、どうするかとか、いろいろと考えなきゃいけないことも多くて……。——すごくお忙しいそうです（笑）。本当に（笑）。家も早く完成させたいし、クラフトビールもこれからだし、どこまでできるんだろうって思うこともあります。ただ、根本的にものを作ることが好きなんですよね。そして、長柄町はすごく自由にいろいろなことをやらせてくれる。ものづくりするにはいい環境だと常々思っています。大変ですけど、そこも含めてすごく楽しく暮らしていますよ。



長柄人インタビュー

03



▶▶▶2014年移住

東京都多摩市から移住。了さんは近隣にある自然素材を用いた建築を、抄子さんはアートギャラリー・カフェ「夏庭」の運営を生業にしている。引っ越しと共に念願だった猫を家族に迎え、夫婦2人と愛猫とでログハウス生活を満喫中。

長柄町の魅力は
何よりも人々
ほどよい距離感が心地いい

鈴木了さん
抄子さん

知らないはずのまちにあった意外な縁

——とても素敵なお店ですね。

抄子さん：ありがとうございます。
この「夏庭」は現代アートを中心としたギャラリーで、オーナーご夫妻のおばさまが持っていた古民家を改装しています。このお庭も自然の景観を生かすように手を加えられているんですよ。

——長柄町にいらしたきっかけは？

了さん：僕の仕事仲間がこの庭を手がけている縁で、オーナーが持っているログハウスの管理を任せられる人を探しているから住んでみないかと連絡がきたんです。僕は自然素材を使った建築を行っているのですが、都市部にはどうしても馴染まないこともあって、素材が近くにある場所で仕

事をしたいと思っていたタイミングでした。
——長柄町のことはご存知でしたか？
抄子さん：それがまったく。私は住むところにこだわりがなかったから、とりあえず見てみよう、くらいの気持ちで来ました。でも、この土地に立ったときに、自分の中に何か吹き抜けるような感覚があって、「あ、これがご縁なんだな」と。

了さん：実は僕の母の実家が茂原にあるんですが、長柄町のことはまったく知らず、来て初めて隣にあるんだと知りました。親戚には「長柄町に住む」って言ったら「なんでそんなところに？」とずいぶん言われましたね。

抄子さん：でも結果的にそれがすごくよくて。まちの住まい方……ゴミの出し方ひとつとっても東京とは違いますから、そういう部分をサポートしてもらえましたし、以前はなかった親戚同士の交流も生まれました。

流れに身を任せ、馴染んだ長柄暮らし

——長柄町の住み心地はいかがですか？

抄子さん：東京では仕事の関係で1日中室内にいて変な時間にご飯を食べて寝る生活をしていたので、朝日が昇って目が覚め暗くなったら眠るという生活に「私もちゃんと人間だったんだ」と感じました。ただ田舎暮らしって草刈りや庭いじり、肉体労働もあって、すごくハード。必要なことをこなしながら流れに身を任せているうちに、ここの暮らしに馴染んでいったよう



に思います。

了さん：地域の方にもすごくよくしていただいたしね。

抄子さん：そうそう。長柄町の人ってとても温かいんですけど、ベタベタした距離感じゃない。ここに来たばかりの頃は主人も普通のサラリーマンではないし、近隣の方々は「どんな人だろう」と心配されていたと思うんです。でも、それが嫌な噂で流れるのではなくて、そっと遠くから見守ってくれているような感じで。

移住者同士も同じで、繋がりって強すぎると鬱陶しく思うこともありますけど、ここは各々が面白いことをやっていて信頼しあっている。その距離感がすごくいいんです。
了さん：適度に放っておいてくれる感じが、僕らには合っていると感じます。

——お仕事の面ではいかがでしょう？

了さん：僕がやっている建築には「その土地にあるものを使って作った家は風土に馴染むものになる」という思いが根底にあり、素材は基本的に近場で採取できるもの。住まい手にも参加してもらいながら先人の技術を現代に合う形で取り入れており、耕

作放棄地の土を壁の素材にしたり、放置された人工林の木を建材にしたり、竹を切って竹小舞という壁の下地にしたりして使っています。
近隣にはそういう技術を学びたいという方もいるので、“結”*として協力していただきながら、こちらとしては人件費を抑えつつ、相手に技術を継承していくことも行っていますね。古民家を受け継いでいくこともそのひとつですが、地域にはこういった技術が必要なものがまだまだたくさん残っているのです。

違いを尊重できる適度な距離感がいい

——それでは最後に、長柄町の魅力はどういう点だと思いますか？

了さん：長柄町はあまり知られていない場所ではありますが、千葉の真ん中でアクセスもいいし、山も田園もダムもあって土地として面白い。移住者にとっても選択肢が多くて暮らしやすい場所だと思います。

でも何よりも一番の魅力は人。本当はもう少し田舎に住むことも考えていましたが、



ここに腰を落着けたのは人の魅力があったから。
人によってはもしかしたらもっとおせっかいなくらいが好きな方もいるかもしれないけど、僕たちにはこの距離感がちょうどいいんです。
長柄町にはアーティストもたくさん移住してきていますが、こういう部分に惹かれてる人も多いんじゃないかな。

抄子さん：そうですね。草刈りで困っていたら草刈機を持ってきてくれる方がいたり、コンビニでパートをしていたら「ログハウスに住んでいる鈴木さんだよな？」と気軽に声をかけてくださったり。そういう田舎ならではの温かさがありつつも、お互いの暮らしを尊重している感じがします。
最近は素敵なお店も増えてきて県外からのお客様も十分に楽しめる場所になってきたと思いますし、ぜひ遊びに来ていただきたいです。ここで声をかけていただければ、お店もご紹介しますよ。

*主に農村などで古くから行われてきた、農作業や家屋の修繕、道普請など単独では難しい作業を近隣の住民同士で助け合う慣行のこと



大学院進学と同時に上京し、東京大学の物性研究所で40年間研究に没頭。2012年に退職した後は本格的に長柄町へと住まいを移し、豊かな自然環境と触れ合うくらしのなかで新たな出会いや学びもアクティブに楽しんでいる。

くらしも学びも アクティブに。 長柄で過ごす充実の日々

八木 健彦さん

始まりは週末だけの二拠点生活

——この場所にきたきっかけは？

以前は越中島にある公務員宿舎に住んでいましたが、40代半ばで退職後のことを考えはじめたときに家が必要だと思うようになりました。ただ、都内にマンションを買ってローンを返済し続けるような生活はしたくなかったのと、若い頃から山が好きだったこともあり、まずは山の近くで週末を過ごせて必要になれば住むこともできる場所を探し始めました。

当初は長野や山梨も検討しましたが毎週末往復するのは現実的でなかったのも、房総半島に目をつけ、ずいぶんいろいろな場所を見て回りました。しかしなかなかピンと来る場所に出会えず決めあぐねていた頃、

「今度こそ大丈夫」と不動産屋に連れて来られたのがこの場所。地目は山林のまま、水道もなくかうじて目の前の町道まで電気が来ているからそれだけは引いてもらえる、という条件でした。

それでもこの景色が見えたときに「ここだ」と感じ、井戸を掘ったところ無事に水も出たので購入に至りました。

その後は週末ごとに TENT を持ってきて過ごしていましたが、これだけ頻繁に来るなら、と思い切ってログハウスのキットを買ったんです。そしたら材料が山のように届きまして（笑）。基礎や壁、屋根は業者がやってくれるので、足場だけ残してもらい、毎週末通って小屋を完成させました。何かを工夫するのは物理の研究と通じる部分ですし、工作も好きだったので、大変でしたけど楽しみながら作業しましたね。

そして退職するまで週末を小屋で過ごし、2014年に正式に長柄町民に。それまでに土地を買い足し現在の本宅を建てました。——ご自宅のこだわりを教えてください。

現在ゲストハウスとして使っている隣の小屋はフィンランド製のログハウスで、壁材には厚みのあるムクの木を使い、機密性が高く気に入っていました。ただ、ログは壁が強度を支えているせいで開口部を大きく作れないという問題がありまして。どうしてもこの景色を家から見られるようにしたかったので、本宅は軸組み工法という伝統的な日本の工法を採用しました。

また、夏涼しく冬は暖かい家にしたいと思



い、太陽光で空気を熱し、その熱で家全体を温めたり、夏は夜間の放射冷却を利用して床下の温度を下げるパッシブソーラーというシステムを取り入れています。自然の風も通るので夏は気持ちが良いですし、冬は薪ストーブだけで十分に暖かいですよ。

自然との触れ合いや新たな学びを楽しむ

——長柄町での暮らしはいかがですか？

今はインターネットさえあれば何でもできますから仕事も買い物も不便はありません。月に1、2回都心まで出かける以外は山でのくらしを楽しんでいます。

町内は杉の人工林が多いのですが、この辺りはもともとあったクヌギやコナラの林なので、冬になって落葉すると九十九里のほうまで見通せて、朝、太陽が海から上がるところも見られます。正面には千葉県最高峰の愛宕山も見えますし、富士山も見えますよ。上総富士という（笑）。地図と見比べるのも面白いですね。

また、このテラスに小鳥の餌台や水浴び用



の鉢を置いていまして、ヤマガラが来てトントントンとヒマワリの種を叩く音で目が覚める。そういうのも大変いいですね。私は鳥が好きでして、季節ごとにいろいろな野鳥が訪れるのをとても楽しみにしています。水浴びの鉢も町内の六地藏窯で焼いてもらった特製ですよ。

——充実ぶりが伝わってきます。

それから今、月に1回2時間ほど近くの公民館を借りて行われる「知のネットワーク」に参加しています。この辺りにはさまざまな経験を積んでリタイアしたエキスパートが大勢いまして、それぞれが得意分野について1時間ほど講演を行い、残りの時間で質疑応答を行う勉強会です。薬学研究をされていた方からいろいろな薬の問題を伺ったり、元新聞記者の方からベトナム戦争時の生の話を伺ったり。最近では学校の先生をされていた方がこの地域の歴史について講演をされたのですが、江戸時代に作られた馬頭観音がきれいなまま見つかった話や江戸時代の古道についての話など、大変に興味深いものでした。



ここは住むほどに好きになれる場所

——現在の長柄町に対する思いをお聞かせください。

長柄町も人口減や高齢化が問題になっていますが、首都圏に近くて自然にも恵まれ、気候も温暖といった立地条件をうまく生かせば、高齢者にも子育て世代にも大変魅力的な暮らしやすい町になると思います。今、学生たちに「これからは都市部だけが住み働く選択肢ではない」と伝えていて、実際に泊まりがけで遊びに来て強く興味を持った人もたくさんいます。

ここは特に鳥や自然が好きなお人には最高だと思います。移動手段の確保や若い人が起業しやすい支援など適切な施策を進めていけば、長柄町はより一層魅力的な町になるだろうと、今後に期待しています。

長柄町で活躍する 地域おこし協力隊

地域活性化のため、
さまざまな活動を行う地域おこし協力隊。
2024年現在、長柄町では3名の隊員が
ミッションに取り組んでいます。
長柄町で活動をするようになったきっかけや、
町に対する思いを語ってもらいました。



町の課題を解決し、地域に還元できる事業を

——地域おこし協力隊になったきっかけは？
妻の実家が隣町にあるので、こちらの方面には
以前からよく遊びにきていました。そのときに
近隣の地域おこし協力隊の方と知り合う機会が
あり、話を聞いているうちに面白そうだな、と。
以前はシステムエンジニアとして働いていたの
ですが、人に依頼されたものを言われたとおり
に作るのではなく、自分で作ったものを世の中
で販売してみたいという気持ちがありました。
地域おこし協力隊は挑戦するよい機会だと思い、
妻の実家の近くで探したところ、長柄町の募集
を見つけました。



池田雅央さん
(2022年8月～)

——現在のミッションは？
フリーミッション型として起業を目指して活動
しています。
これまで物を作って売ったことがなかったの、
どのようなものが市場で求められているのか、
どうすれば利益が出るのかなどの知識は一切な
く、最初はいろいろなものに挑戦しながらノウ
ハウを蓄積していきました。
——今後の展望をお聞かせください。
今、廃食油から食器用洗剤を作ろうと思ってい
まして、一緒に取り組んでくれる企業を探して
いるところです。
近隣に産業廃棄物のスクラップヤードがあるの
ですが、それらは都市部から来ているものがほ
とんど。それを少しでもどうにかできればと。
やっとやりたいことが形になってきたので、今
後はこの事業を軌道にのせ、いずれは地域に還
元できる形にしたいと思っています。



——最後に、長柄町の魅力とは？
すごく静か。静かすぎるくらい(笑)。ただ、静
かすぎるとどうしても少しは都会との接点がほ
しくなってしまうんですね。
そういう意味では、長柄町ってすごくちょうど
よくて、車さえあれば2、30分で大きなショッ
ピングセンターにもおしゃれなカフェにも行け
る。一宮の海岸も近いので、朝起きて散歩がて
ら車を飛ばして海へ、なんてこともできちゃう
んですよ。
都会と田舎のいいとこどりができる。すごい
いい場所ですよ。

この3年間で今後の人生の大きなステップに



田村和之さん
(2024年4月～)

——地域おこし協力隊になったきっかけは？
妻が長柄町出身でいずれはこちらで暮らしたい
という意向があり、何度か遊びにきて親しみも
あったので、移住するつもりで準備してきました。
しかし、こちらに来るとこれまでどおり東京で
働くことが難しい。そのときに、ちょうど募集
していたのが、農業をミッションとする長柄町
の地域おこし協力隊。
もともと父が植物好きだった影響で私も農業に
関心があり、自分でもやってみたいと思ってい
ました。そして今後農業に関わっていくのなら
ば、協力隊としての3年間で大きなステップに

なると思ったんです。
——これまでにどのような活動を？
町からは特に作物の指定はなかったので、春先
は知人の紹介などでお米の植え付けを手伝って
いました。それが落ち着いた5月以降は、自分
でも以前から育てていて興味があったイチジク
農家にお手伝いに行っています。
——初めての農業はいかがですか？
自然との関わりなので、天候や時間も関係なく
やるべきことをやらなくてはいけないのが大変
ですね。
それと、やはり食の安全に関しては気を遣いま
す。僕は以前、エンジニアとしてもづくりを行
っていましたが、プログラムにミスがあっても
命に関わることはほとんどない。しかし、農
作物はちょっとしたミスが病気などに繋がって
しまう可能性もある。
もちろんどんな仕事にも自分が作ったものに対

する責任はありますが、特に食に関しては口か
ら入るものなので、これまでとは違う責任を感
じます。
——今後の展望を教えてください。
この3年間で実際に作物を作る側になるのか、
生産者をサポートする側になるのかを見極めたい
と思っています。
ただ、いずれにしても農業には関わっていきたく
と考えていますので、流通や販売を含めたさ
まざまな仕事も視野に入れながら3年間で過ご
すつもりです。



「林業」と「発信」で長柄町と関わっていく

——地域おこし協力隊になったきっかけは？
東京でライフスタイルメディアの運営をしてい
たときに、町内で放置されている人工林を活用
しながら女性中心で家建てを「セルフビルド」
のお話をいただき、最初は編集者として情報
発信と運営の役割で携わりました。
でも1年ほど経った頃から、我慢ができなくな
っちゃって作業に参加するように(笑)。
家は4年ほどで完成したのですが、協力してく
れた町の方や企業と生まれた繋がりを失うのは
もったいないなという気持ちと、少しですが林
業に携わったことで見えた課題に対して何
かできることがあるのではないかなという
気持ちが芽



生え、引き続き地域おこし協力隊に応募して町
と関わっていくことにしました。
——現在は二拠点生活をされているそうで。
長柄町は都内からのアクセスもよいので、完全
な移住ではなく二拠点生活をしながら地域と関
わる姿を見せることも、町の魅力のアピールに
繋がるのではないかなと思ひまして。
今直しているこの建物が完成次第、活動の拠点
として使っていく予定です。
——現在はどのような活動を？
林業といっても木を伐るだけではありません。
整備したあとの土地の有効活用や、家作り以外
にどんな木材の活用法があるのかを、地元の方
々と一緒に考えたり。
クラフトビール作りのお手伝いもしてまして、
そこでも今後、地元の杉のチップを活用した燻
製ビール作りを計画しています。
——今後はどのような活動を？



武田史子さん
(2024年5月～)

最近、町内のいろいろな方からよく聞くのが、
害獣対策。これも森林整備、里山整備の一環で、
大きな問題です。
駆除ももちろんですが、現状、獲れた害獣はほ
とんどが処分されてしまうので、これをうまく
活用して長柄町に新たな特産品を生み出すところ
まで繋げられればいいなど。商品化して、ブ
ランディングや、フリーマガジン・SNSなど
でPRもできますね。
ここでのミッションである「林業」と私の本業
である「発信」を絡めて、できることからやっ
ていきたいと思っています。



2022年に就任した月岡町長は、長柄町で生まれ育ち、長柄町の人として暮らしてきた経験をもとに、町民目線でまちづくりに取り組んでいます。今回は町長ご自身のことや長柄町が現在抱える課題と目指す姿について、詳しくお話を伺いました。

目指すのは「みんなが笑顔で暮らせるまち」

長柄町長 月岡清孝 インタビュー

災害のない町をめざして町長に

——町長のご経歴を教えてください。

生まれも住まいも長柄町。生粋の長柄町育ちです。高校卒業後に18歳で一度東京に出て、品川区で公務員をしながら夜間大学に通いました。

その後、長柄町に戻ってゴルフ場関係の仕事をしながら家業であるさつまいもの観光農園を手伝うようになりました。そのほかにも田んぼで米を作ったり、消防団にも入っていましたね。そして、39歳で町会議員になり、農協の青年部にも所属して、若手農家の育成や衰退していく地域で農業を残していくための活動を

行っていました。

その際はたまたま県や関東甲信越ブロックの代表として県外に出る機会にも恵まれ、若手農家の方から話を聞いたり東京で会議に出席したりと、たくさんの刺激をもらいました。この経験は、今でもとても役立っていると思います。

——町長に立候補されたのは？

令和元年に長柄町で起こった水害をご存知でしょうか。

まず9月に台風が直撃し、長い地域では2週間の停電を経験。さらにその40日後には再び台風の影響による豪雨で一宮川が氾濫し、2人の町民が亡くなりました。

私は高校で土木を専攻し、品川区でも土木課で都市計画を担当していたので、減災に対して強い思いがあります。この災害を目の当たりにしてその思いがさらに強まり、ちょうど町長選が行われるタイミングだったことから前町長にも相談したところ、後押しをいただ



いて立候補することになりました。当時はコロナ禍で暗い雰囲気も漂っていたので、まちを元気にしたいという思いも強かったですね。

人を呼び込み、長柄町に活気を

——現在の町政について教えてください。

「基盤の整備」「福祉の充実」「教育の充実」「生活環境の整備」「産業の振興」「地域・行財政の充実」を6本の柱とし、町政に取り組んでいます。

特に今、力を入れているのは外に向けたPRです。長柄町はこれまであまり発信をしてこなかったため、東京から車で1時間の距離にありながら、通り過ぎてしまう場所、知ってもらえない場所になっていました。そこで、地元企業が直売所をオープンしたことをきっかけにメディア出演も積極的に行うようになり、最近では紹介された飲食店に町外から人が訪れるなど、目に見える効果があらわれています。町民の皆さんからも好意

的な反響をいただいています、そういったところからも町に活気を呼び込み、町民の方々にも元気になっていただきたいと思っています。

——それでは逆に課題はどのような部分でしょうか。

まず挙がるのは人口減少や少子高齢化の問題ですが、日本全体で人口が減少するなかで、これは仕方のないこと。少ないパイの取り合いにはなりますが、長柄町としては移住定住に力を入れつつ、まずは関係人口として関わっていただけるように人を呼び込んでいきたいと思っています。

また、学生や高齢者など、車を持たない方々の移動手段の確保も重要な課題ですね。長柄町でも直近でバス路線の運休があり、業者とも交渉を続けながら今後の対応を急いで検討しているところです。

長柄町での時間をまずは楽しんでほしい

——それでは、長柄町の魅力についてお聞か



せください。

ありがたりますが、自然が豊かでのんびりしているところですかね。私も少し東京にいたからより感じますが、長柄町では生活の中に余白や行間がある。ちょっとした自分の時間を持つ余裕があるんです。夜は星もきれいに見えますし、虫やカエルの鳴き声も聞こえて。旬の作物もおいしくて、長柄町は特にお米も評判なんですよ。

そんな環境にありながらも、東京から車で1時間ちょっとで来られる、というのがこの町の魅力ではないでしょうか。

いきなり長柄町に定住をしてください、と言ってもハードルは高いでしょうから、まずは1度、週末の息抜きがてらで来ていただきたい。肩肘張らずに長柄町の時間を楽しんでいただいて、検討するところから始めてもらえればうれしいですね。

——最後に、長柄町をどのような町にしたいですか？

いろいろありますが、とにかく町民の皆さんが生き生きと会話し、笑顔で暮らしていられればそれでいい。それだけを考えて、まちづくりを行っていきたくと思っています。



つきおか きよたか
長柄町長 月岡清孝

1971年、長柄町生まれ。千葉県立茂原農業高校農業土木科を卒業後、東京都品川区役所入庁。天王洲アイルなどの都市計画に携わる。2010年の町議会議員補欠選挙で初当選し、町議会議員を12年務めた。町観光協会会長や町商工会副会長などを歴任。趣味は旅行、音楽鑑賞、食べ歩き。

対面で移住相談ができる
ながら移住定住ブース「I LOVE NagaLIFE」

長柄町役場1階にオープンした「I LOVE NagaLIFE」には長柄町移住定住コーディネーターが、長柄町への移住・定住について対面でサポート。空き家バンクをはじめとした住まいの情報、長柄町での働き方や暮らし方、さまざまな支援制度など、気になることになんでもお答えします。
お電話やメールでもご相談を受け付けていますので、お気軽にお問い合わせください。

所在地：千葉県長生郡長柄町桜谷712(長柄町役場1階)
開設時間：月・水・金9:30～15:30 祝日は除く
Mail：kikaku@town.nagara.chiba.jp



移住定住コーディネーターに聞きました！
長柄町で“くらす”魅力とは？



長柄町移住定住コーディネーター
長谷川さん

「I LOVE NagaLIFE」では、長柄町への移住・定住を希望される方に対し、お電話やメール、対面でのサポートを行っています。以前はリタイア後の生活を田舎で送りたい、というシニア層の方が多くいらしてましたが、最近は30～40代で新しい生活を始めたいという方のご相談を多くいただきます。また、まずは二拠点生活からスタートし、ゆくゆくは移住を、という方も増えてきました。
長柄町には里山の美しい景観があり、緑に囲

まれた場所です。いつでも新鮮な旬の農作物が店頭に並び、食も大変豊かです。その一方で、車を走らせれば30分ほどで一宮海岸まで行くことができ、都心までも1時間ほどでアクセスできます。
以前は本当に何もない田舎でしたが、ここ10年ほどでさまざまなお店がオープンし、町で暮らす人間から見ても盛り上がりを実感しています。ここだけではお伝えしきれない魅力がたくさんありますので、ぜひ一度お越しください。

長柄町の移住・定住コーディネーターをつとめる
長谷川さんに、町の魅力を伺いました！

移住までのステップ

スムーズな移住には、事前の準備が大切です。
必要なステップを確認してみましょう。



支援制度を活用しよう！

住む	働く
町内の空き家を活用して移住した場合、さまざまな支援を受けることができます。	長柄町で起業される方への補助金があります。給付の条件など、お気軽にご相談ください。
空き家・空き地バンク制度を利用して	長柄町で起業したい人のための長柄町創業者支援補助金
住宅を改修した場合 最大130万円を補助	対象経費の1/2(上限50万円) 空き店舗を活用した場合 ……上限70万円 空き家バンク登録の空き家を活用した場合 ……上限80万円
住宅を新築した場合 最大60万円を補助	※対象となる条件や経費などについてはお問い合わせください
※また、家財道具の撤去や庭の清掃、仲介手数料、引っ越し代などにも補助があります	
お問い合わせ 企画財政課 Tel: 0475-35-2110 / Fax: 0475-35-4732	お問い合わせ 産業振興課 Tel: 0475-35-4447 / Fax: 0475-35-4743